

科目名	現代ヨーロッパ論	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	臼井 陽一郎		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-2-350006	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>* ヨーロッパ統合の来し方・行く末について熟考する。</li> <li>* ヨーロッパ国際社会の政治的特徴について理解する。</li> <li>* 現代ヨーロッパを第1期と第2期に分け、ヨーロッパ統合の視点からその質的相違について考察を深める。</li> <li>* ヨーロッパ各国政治に共通に見られる諸課題（格差、難民、極右、テロ）について、ヨーロッパ統合の視点から議論する。</li> </ul>				
学修到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>* ヨーロッパ統合の歴史的な意義と現代的な課題について、自らの認識をたえず新たにしていける自分なりの接近法を手に入れること。</li> <li>* 現代ヨーロッパの動向に東アジアの今にも通底する政治の課題を見いだす批判的思考に習熟すること。</li> <li>* 特定地域の国際政治の歴史を学習しつつ現在の動向を追うにあたって、実績の光と失敗の影の双方に目を配り、両者を鋭く対比させる認識方法を獲得すること。</li> </ul>				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	ヨーロッパの外からヨーロッパについて考える。
第2回	現代ヨーロッパの歴史区分。ドイツ問題の視点から。
第3回	ヨーロッパの政治理念、キリスト教民主主義と社会民主主義。

第4回	ヨーロッパの国際組織① CoE
第5回	ヨーロッパの国際組織② NATO
第6回	ヨーロッパの国際組織③ OSCE
第7回	第二次世界大戦後ヨーロッパの建設。統合への道。
第8回	東方外交からヘルシンキプロセスへ。
第9回	1989年。ベルリンの壁崩壊からドイツ統一へ。
第10回	EU欧州連合の形成、東欧革命の諸相。
第11回	ユーゴ内戦、そしてウクライナの今。
第12回	ヨーロッパの実存的危機① ユーロ危機。
第13回	ヨーロッパの実存的危機② 難民危機。

第14回	ヨーロッパの実存的危機③ ポピュリズム。
第15回	授業のまとめ。
第16回	定期レポート提出

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	授業で指示した学習内容について。2時間。
【復習】時間・内容	授業の学習した内容について。2時間。

成績評価	
評価基準・方法	学期末レポート・30%+毎回の授業要約コメント400字課題（授業時間中に提出）・70%
フィードバック方法	毎回のコメントカードおよび学期末レポートについて、適宜、講評する。

アクティブラーニング	
実施の有無	×
実施内容	
教科書/参考書	<p>網谷龍介・成廣孝・伊藤武編著 『ヨーロッパのデモクラシー』 ナカニシヤ出版            マーク・マゾワー 『暗黒の大陸:ヨーロッパの20世紀』 未来社            トニー・ジャット 『ヨーロッパ戦後史』 (上・下) みすず書房            遠藤乾 『欧州複合危機 - 苦悶するEU、揺れる世界』 中央公論新社。</p>
受講上の留意点等	<p>関連科目にEU論・地域統合論・国際法・国際組織論がある。事前にもしくは平行して受講するようにしてほしい。</p>
JABEE	